

Sonora XJを 輪転機・枚葉機で フル活用

株式会社アスコ



オンデマンド印刷課 プリプレス 係長 角川満 氏

完全無処理版 Sonora XJを全面採用し、繁忙期には月平均で輪転機10,000版、枚葉機5,000版という国内最大使用量を誇り、耐刷性能も輪転機で56万通しという驚異的な実績を達成。

7億超の年間通し枚数を誇る流通小売支援企業

広島県福山市に本社を構える株式会社アスコは、青山商事グループの流通小売支援企業として、チラシ・DMの印刷から店舗演出販促ツールの制作、タウン情報誌の出版、Web・映像制作、クロスメディアまで幅広い事業を展開している。顧客には青山商事の他、全国の食品スーパー、ドラッグストア、ホームセンターなどが顔を揃え、企画から制作、印刷、加工まで一貫した生産体制が強みである。主力の印刷事業では年間通し枚数7億超という桁違いの生産量を誇り、チラシ対応のB縦半裁輪転機4台と菊全8色両面機2台を擁する府中工場(広島県府中市)がその中核を担っている。

「耐刷性能、絵柄の視認性、そして印刷に影響のない構造だという点を高く評価しました」

輪転機でも期待以上の耐刷性能と品質、機上現像性を評価し Sonora XJへ全面移行

同社が府中工場で使用する刷版をコダックの Sonora XJ プロセスフリープレートへと全面的に切り替えたのは昨年10月のこと。周辺地域への環境配慮を考えた上での決断で、その経緯について工場長の



印刷事業部 部長 工場長 檀浦 道征 氏



生産管理課 課長 鈴木寛 氏



生産管理課 (品質管理) 専任課長 柿木直人 氏



2 台の CTP で最大 15,000 版／月を出力



B 縦半裁オフセット輪転機を 4 台保有



タウン情報誌の編集・出版業務も得意分野

檀浦道征氏は次のように語っている。

「工場のすぐ側には畑や住宅があり、企業として周辺環境に対する責任がありました。無処理版であれば廃液の心配がなく、現像液の購入費や廃液の処理費も削減できるので、以前から導入を模索していました。ただ今までは輪転機にも対応する高い耐刷性能を備えた無処理版がなかったので、今回 Sonora XJ なら輪転機でも大丈夫だと初めて伺って、すぐに製品テストをはじめました」

テストは仮運用を含めて昨年 8 月から約 2 カ月間かけて行われた。まず最初に標準カラーチャートを使ったテスト印刷を枚葉機と輪転機で各 2 回ずつ実施した。結果はスムーズな機上現像で、損紙の増加もなかった。心配していたドットゲインの太りもなく、印刷品質も安定していたため、実際の仕事で試用しながら耐刷性能を確認していった。こうした仮運用を続けるなかで、当初最低基準としていた 20 万通しの印刷実績も達成でき、Sonora XJ への全面移行が決まった。生産管理課（品質管理）専任課長の柿木直人氏は、同社が Sonora XJ を採用した理由を 3 つ挙げている。

「すぐれた耐刷性能と絵柄の視認性、そして感光層の成分が湿し水に溶け出すことなく、印刷に影響のないプレート構造だという点を高く評価しました。今回は他社製品も並行してテストしたのですが、Sonora XJ はこの 3 点で圧倒的にすぐれていました」

Sonora XJ の感光層はシンプルな単層構造で、水溶性の酸素遮断層がない。非画線部の感光層は湿し水に溶け出すことなく、インキのタックで物理的にはがし取られる。こうしたコダック独自の Press Ready Technology が、同社でも高く評価された。

輪転機で 56 万通しの驚異的な実績を達成

同社は 9 月に枚葉機で、10 月に輪転機で、刷版を Sonora XJ へと完全に切り替えた。テスト期間同様、実際の仕事でも Sonora XJ の刷り出しの早さは現像有りプレートと遜色なく、印刷品質も問題なかった。視認性については当初、「現像有りプレートと比べて見にくい」と戸惑うオペレーターもいたが、すぐに慣れたようだ。Sonora XJ でも色版、店名、絵柄がきちんと確認できるので、取り間違いはないという。版面を良く確認するようになり、小さなキズにも事前に気がつくようになったようだ。無処理版はガム処理がなく、キズがつきやすいのが唯一の欠点だが、今まで以上に刷版の取り扱いが丁寧になり、「品質保持の面では逆にメリットだった」と柿木課長も喜んでいる。こうして 10 ～ 12 月の繁忙期 3 カ月間で、月平均 15,000 版（輪転機 10,000 版、枚

葉機 5,000 版）を使い、輪転機では 56 万通しという驚異的な耐刷性能も達成した。予想をはるかに超える数字を記録し、Sonora XJ の採用は同社にとって大成功だった。

無処理版によるコスト削減効果は年間約 200 万円

無処理版への完全移行に伴って、プリプレスの現場では現像処理に関わる一切の作業がなくなった。オンデマンド印刷課 プリプレス 係長の角川満氏はメンテナンスの手間が大きく削減できていると次のように語っている。

「今までは週に一度日曜日の夜に 3 時間かけて現像機の水替え作業を行っていました。また月に一度は 2 人がかりで 5 ～ 6 時間かけてローラ洗浄を含む徹底した清掃作業が必要でした。こうしたメンテナンスの手間と時間が一切なくなりました。また、現像処理中のトラブルが原因で発生していた版の再出力が大幅に減りました」

これにより生産性向上とコスト削減が図れていると、生産管理課 課長の鈴木寛氏は次のように話している。

「現像処理工程がなくなって、製版部門ではトータル 1.5 人分の業務改善が図れ、その人員を他の業務に振り分けることができました。会社全体で見ると人員の適性配置によって、生産効率の向上、生産性の向上にも確実につながっています。コストも 10 ～ 12 月の 3 カ月間で廃液処理費が約 15 万円、現像液・ガム液の購入費が約 36 万円削減できました。年間では約 200 万円のコスト削減を見込んでいます」
チラン印刷と流通小売支援をキーワードに大きく成長してきた同社だが、今後は教育分野や DM、冊子印刷などにウィングを広げて、さらなる成長を目指している。そのなかでコダックとの協力関係もまた、さらに深化してゆくに違いないだろう。



写真は府中工場

株式会社アスコン

代表取締役社長：中原 貴裕

〒721-0964

広島県福山市港町 1 丁目 15 番 27 号

TEL：084-920-0111（代）

FAX：084-920-0116

<http://www.ascon.co.jp/>

コダック 合同会社

<http://www.kodak.co.jp>

〒140-0002 東京都品川区東品川 4-10-13 TEL.03-6837-7285（営業代表）

大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265 福岡：050-3819-1270

仙台：050-3819-1255 札幌：050-3819-1250 金沢：076-200-9583

製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com

2017-01

